



マフトピックス

MAFF TOPICS

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。「MAFF TOPICS」では、農林水産省からの最新ニュースなどを中心に、暮らしに役立つさまざまな情報をお届けいたします。

取材・文／細川潤子

News 2 | 木のある暮らしをもっと身近に

■ 優秀賞 (林野庁長官賞)

ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

CJシリーズ (奈良県)

studioJig



特殊な成形技術を使い、家具用材としては不向きとされてきた針葉樹(吉野杉)を利活用した家具シリーズ。

ハートフルデザイン部門 建築・空間分野

木の室内創造あそび場「感性の森」(宮城県)

錦エステート(株)ほか



商業施設内にある子どもの感性を引き出す木の室内遊び場。

ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

Gビル自由が丘01 B館 (東京都)

日本リテールファンド投資法人ほか



「家」というコンセプトで人々を優しく受け入れ、訪れたくなる居心地の良さをもった商業建築。

■ 最優秀賞 (農林水産大臣賞)

ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト (秋田県)

東日本旅客鉄道(株)、秋田公立美術大学、(有)萩原製作所、(株)ジェイアール東日本建築設計事務所、第一建設工業(株)、鉄建建設(株)



駅と自由通路を一体的に木質化。

木の良さや価値を再発見できる取り組み
第3回を迎えた「ウッドデザイン賞」は、木のある暮らしをより浸透させ、木材利用を促進することを目的に始まりました。木材で暮らしと社会を豊かにする「モノ」「コト」を表彰する制度です。今年度は、453点の応募があり、250点の作品が「ウッドデザイン賞」を受賞しました。この中から、最優秀賞(農林水産大臣賞)、優秀賞(林野庁長官賞)、奨励賞(審査委員長賞)に25点が出されました。表彰部門は、ライフスタイルデザイン(木を使って暮らしの質を高めているもの)、

ハートフルデザイン(木を使って人の心を豊かにし、身体を健やかにしているもの)、ソーシャルデザイン(木を使って地域や社会を活性化しているもの)の3つです。最優秀賞を受賞した「ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト」は、産官学が地域と連携して進める秋田駅周辺施設のリニューアルプロジェクト。秋田杉など県産の木材を活用し、木に囲まれて、木に癒やされる空間づくりが強く評価されました。このほか、木造の床遮音技術の開発など、今後の木材利用の拡大につながる技術・研究も多く見られました。

詳細はこちらへ!

ウッドデザイン賞運営事務局 ▶



News 1 | 農業経営でのデータ分析が手軽に

ワンストップで情報の入手が可能に
近年、さまざまな農業 ICT (情報通信技術) サービスが生まれていますが、今まではデータやサービスが官公庁、研究機関、民間企業などに散在し、個々で完結して、相互連携がとれていませんでした。そのため、数多くのデータを農業に活用することが困難な状況にありました。そこで昨年、誰もがデータを駆使して生産性の向上、経営の改善に挑戦できる環境を整えるため、農業に関するさまざまなデータをまとめるシステム「農業データ連携基盤(データプラットフォーム)」を立ち上げて、試行運用を開始しました。これによって、バラバラだった多くのデータが統合・分析できるようになり、農作物の収量や品質の向上、戦略的な経営判断が可能になります。さらに、データを活用した新たなサービスの提供も実現できます。農業データ連携基盤は、来年4月をめどに、サービスの本格提供が始まる予定です。この新しいシステムの稼働によって、データの力で農業を一層元気にしていくことが期待されています。

農業データ連携基盤のイメージ



農業データ連携基盤

データを分析することで
収量や品質が向上

データに基づく
戦略的な経営判断

消費者によりよい産品を安定的に提供することが可能に!

※画像提供/農研機構、国土地理院

読者の声

読者の皆さまから寄せられた「aff(あふ)」1月号へのご意見・ご感想を紹介します。

「ジビエ」の特集で、その意味とルーツを改めて知り、勉強になりました。ジビエ料理が日本中にこんなにあるとはびっくりです。今度予約をして店に行ってみたいと思います。(60代以上・男性)

昨年、シカ肉を食べる機会があり、柔らかさとおいしさに驚きました。値段がもう少しお手ごろになってくれたらと思いつつ、お店で売られているシカ肉を眺めています。(30代・女性)

野生鳥獣の肉を有効活用するジビエの普及が進んでいますね。ハンター不足の中、「未来を担う生産者」の女性の活躍は頼もしいです。命をいただく大切さを知りました。(60代以上・女性)

「おでん」を読んで、旅行に行ったらご当地おでんを味わってみたいになりました。地域によって特色があるんですね。(40代・女性)

おでんが大好きです。たっぷり味のしみこんだ大根とたまごがあれば幸せです。(40代・女性)

「ニッポンの郷土料理」のたまご鍋。根付きのせりが地元で手に入るかわかりませんが、私にもつくれそうだったので試してみたいと思いました。(40代・女性)

広報誌aff(あふ)の感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省Webサイト「aff(あふ)」のページから回答できます。



メールマガジンのご案内

大臣メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする「農林水産省メールマガジン」を毎週月曜日に発行しております。ぜひご覧ください。無料です。
http://www.maff.go.jp/pr/e-mag

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN

現在



1 生産者、市、JA、民間企業等が研究会を立ち上げ、農業の復興のシンボルとして、「たかたのゆめ」を地域ブランド米とすることを旨として、田植え・稲刈り等のPRイベントに取り組んでいる。「たかたのゆめ」の作付面積は平成24年の1農家、0.2haから平成29年には46農家、56haまで拡大している。



2 被災者の住宅再建等の建築用資材の物流拠点として、仮設事務所業務を行ってきたが、ようやく平成29年に再建。復興のシンボルとなるように、構造材には宮城県産材のCLT(直交集成板)を使用し、内装材には東北産の針葉樹・広葉樹を使用している。



3 山田さんは、平成23年7月に避難先の中島村で経営を再開。現在は福島市に拠点を移し、雌牛約40頭を飼養。30年度からの飯館村での経営再開に向けて、雌牛6頭を村内の除染された水田に放牧し、飼養実証に取り組んでいる。



写真提供(左) / 小名浜さんま郷土料理再生プロジェクト

4 連合会は大規模な冷凍冷蔵工場を整備。新鮮な魚をその日のうちに加工・凍結することで、沖合で操業する漁船の受け皿となる。また、「さんまのポーポー焼き」などの新商品の開発、福島の魚のPR活動等を行うことで、販路の回復を図っている。

News 3 東北の復興・創生は着実に前進

被災後



1 陸前高田市では水稲作付面積の7割が被災し、生産者は大きな被害を受けた。



2 建築資材の物流業務を行うナイス株式会社の仙台物流センターでは、6mを超える大津波で壊滅的な被害を受けた。



3 飯館村で繁殖用として雌牛約30頭を飼養していた山田さんは、全村避難指示を受けて村から避難した。



4 震災により、福島県漁協連合会は傘下の漁協で魚市場や冷蔵庫などが壊滅的な被害を受けた。

【岩手県】

1 「たかたのゆめ」ブランド化研究会
【岩手県陸前高田市】

【宮城県】

2 ナイス株式会社
【宮城県仙台市】

3 畜産農家 山田猛史氏
【福島県・飯館村】

【福島県】

4 福島県漁業協同組合連合会
【福島県いわき市】

東日本大震災から7年 本格復興に向けて

東日本大震災の発生から7年が経ち、地震・津波被災地域では、生活に密着したインフラの復旧がほぼ終了し、産業・生業の再生も着実に進展しています。また、福島県の原子力被災地域では、避難指示解除準備区域、居住制限区域が解除されたことで、

帰還困難区域を除いて、ほぼすべての避難指示が解除され、避難者の方々がふるさとへ帰還できる区域が増えました。こうした中、被災地では、将来につながるさまざまな活動が行われています。復興の総仕上げという重要な場面を迎えている岩手、宮城両県、そして本格的な復興に向けた福島県の取り組みを紹介します。

ふくしまプライド便

福島県は Amazon、楽天、Yahoo! のオンラインストアと連携し、年間5回の販売促進キャンペーンを行っています。

各ストア内に特設サイトを設置し、県内生産者等の新たな流通ルートを確認するとともに、全国の消費者が福島県産品の魅力に直接触れる機会をつくっています。



福島が誇る食材はこちよ

ふくしまプライド便 ▶

